

愛道 aidou

Vol.
142

令和5年



①

あすわ

「生きる」に、伴走し続ける。

社会福祉法人 足羽福祉会

足羽福祉会

法人ブランディング、はじまる。

令和5年4月1日の福井新聞にて新しいシンボルマークとロゴマークを発表しました。法人はもとより福祉業界全体におけるこれまでのイメージを変えていき、ブランドの魅力を高めることで人材採用や定着につなげます。そして、利用者様・地域の方々・職員みんなが「ここがよかったと思える法人」になることを目的にしています。デザインでは法人のカラーを黄色に定め、シンボルマークとなる二つの輪には、「支え合い・伴走ロープ・共生・共同」などといった法人が大切にしている思いを込めています。また、表記も漢字から「あすわ」とひらがなにする事で、誰もが読みやすい表現に変更しました。



「生きる」に、伴走し続ける。

新しい幕開け。希望の黄色と伴走ロープがモチーフのロゴには、誰もがしあわせに暮らせる社会への願いと、ともに走り続ける「あすわ」の思いを込めています。



「ふくじ」には、「ふくし」が隠れている。

「あすわ」は「あす」+「わ」で構成されています。「あす」は「あすなろ」の「あす」から、「わ」は「わがや」の「わ」からとりました。また、「あすわ」は「あすなろ」の「あす」+「わがや」の「わ」からとりました。また、「あすわ」は「あすなろ」の「あす」+「わがや」の「わ」からとりました。



あすわ

足羽福祉会

PURPOSE

組織の存在意義
社会に対してどのような独自価値でどのように貢献するか

だれ一人取り残すことなく、途切れない支援を行い、地域社会から生きづらさをなくす。

MISSION

日々果たすべき使命
パーパスを実現するために日々果たすこと

仲間とともに、福祉の専門家として常により良い支援を考え、行い、改善する。地域と福祉のより良い未来を志向する。

VISION

実現したい未来
ミッションを継続することによって得られる未来像

共に生きている。それがふつうの世の中に。

法人ブランディングの一環として、既存の「法人理念」と「職員行動方針」に、法人の社会的存在意義をプラスし、より具体的でわかりやすい表現で現代にフィットさせた、足羽福祉会の「パーパス・ミッション・ビジョン」も策定しました。

職員への質問コーナー Vol.5

仕事中のホッと一息な瞬間は？



保育教諭 T・Fさん

足羽東子ども園

子どもたちの柔らかいほっぺたを触る瞬間が大好きです。今は1歳児の担任なので、毎日子どもたちのうるうるぶるなほっぺたを触り…あわよくば自分のほっぺとびったんこ♡大騒ぎな一日の、幸せ～な時間です。お喋りし始めた子どもたちのたどたどしい話し方も可愛くて癒されます。



介護員 K・Kさん

愛全園

休憩中、持って来たキットカットを食べて休憩室のソファに横になることです。糖分補給して仮眠するのは最高ですね！最近クッキー&クリーム味のキットカットをもらっておいしかったので、スーパーを探し歩いています。どこかで見つけたら教えてください！



Vol.142
令和5年7月1日発行

COVER PHOTO

グループホーム美山でのサツマイモ苗植えの様子。畑が得意な利用者様と職員とで協力し合いながら取り組みました。収穫の時期が待ち遠しい初夏の一枚です！



CONTENTS

- 01 職員への質問コーナーVol.5/目次
- 02 足羽福祉会 法人ブランディング、はじまる。
- 03 特集
ボランティアから見えてくる福祉のやりがい
誰でも誰かの役に立っている！
- 05 足羽福祉会インフォメーション
- 07 森のアートフェスタ出店しました！
- 09 インターンシップ&キャリア採用情報



特集

ボランティアから見えてくる 福祉のやりがい

誰でも誰かの役に立っている!

足羽更生園 T・Wさん

物腰が柔らかく、優しい人柄でありながら、トラブルがあっても落ち着いて対応するたずまいから先輩後輩問わず慕われる入職4年目の若手職員。趣味はバイクツーリング。



足羽学園 R・Wさん

令和5年度入職の新卒職員。学生時代は子ども教育を専攻し学びを深め、新人ながらも福祉にかける思いと行動力が輝く期待のルーキー。



新型コロナウイルスの影響により、ボランティア活動等の自粛や活動内容の変更が余儀なくされ、活動へのモチベーション低下やボランティア活動そのものの衰退などが危惧されています。

特に若い世代（15〜24歳）のボランティア行動率が全国最下位（令和3年社会生活基本調査より）の本県において若い世代に向けたボランティア活動の啓蒙や情報発信は欠かせない状況です。

当法人では「人を支えるのは人」という考えのもと地域で支えあう人材の育成を目的にしたボランティア育成事業を展開しており、事業所ごとに学生をはじめ随時募集を図っています。

今回は、どこか難しそうで、なんとなく足を踏み入れにくいイメージのボランティアについて、実際に参加してきた職員にインタビューを実施し、活動参加への経緯ややりがいについての生の声をお届けします。

——今までどんなボランティアに参加した経験がありますか？

T・W 学校の夏休み、冬休みを利用して、足羽学園でボランティアをしました。他に認定こども園でもボランティアをしています。

R・W 足羽学園、足羽川ふれあいマラソンでの経験があります。インターンシップでは足羽ワークセンターでもボランティアをしました。足羽福祉会以外の法人でも福祉関係のボランティアに参加してきました。

——どのようにボランティア参加に興味をもったのですか？

T・W そもそも学校のカリキュラムに組み込まれていて参加せざるを得ない状況でした（笑）。足羽学園を選んだ理由は知人からの紹介と、通っていた学校の先輩が働いているのを知っていたことも大きかったですね。

R・W 大学2年次の時の実習先が足羽学園でした。その実習を通して、働く職員の方々の雰囲気や利用者様への支援を目の当たりにしてここで働きたい！と強く思い、ボランティアに参加しよう決めました。

——ボランティアに参加してみて感じた正直な感想を教えてください。

T・W 参加した前後で大きくイメージが変わるようなことはなかったですね。9時〜18時でしたし、まったく辛くはなくて楽しく感じました。利用者の方に名前を覚えてもらうことが嬉しくて、どんな楽しかった

ていったのを感じています。

R・W 実習では、「実習生」として接していただいたいました。でもボランティアというのは少し立場が違って、評価など関係なく職員の方と色々な話ができたことが嬉しかったし、勉強になりました。実際に入職して働くようになってからは、利用者の方に名前を覚えていただいたりして、働きやすいと感じました。

——ボランティアのどのような場面を見て、福祉を職業にしたいと考えましたか？

T・W（業務内容よりも）とにかく職員の方がいい人ばかりだったことが決め手でした。就職活動をしていてどこに入職しようかと考えた時に、環境や人間関係のことがよくわかっていない新しいところよりも、わかっていて足羽学園で働きたいなと思いました。

R・W 私も意見が似ているのですが、職員同士の人間関係が良かったことが大きかったです。また、ボランティアを通じてこの人みたいになりたい！と尊敬できる職員の方を見つけたことが大きかったです。

——具体的にどのような場面、というのはありますか？

T・W 先輩に勧められたのが一番大きかったのが正直なところですが、でもボランティアを通じて、一人ひとりに対する手厚い支援に魅力を感じました。保育園の実習の時のような30対1という環境ではなく、少数に対する個別支援が自分には合っていると

感じました。

R・W 私も実習に行くまでは、障がいのある子どもに対するイメージがあまり良くなかったんです。でも実習を通して大きくイメージが変わりました。普段している支援の意図もしっかり教えてもらえることで自分の知識も深まりましたし、繰り返しになってしましますが何より職員の方が楽しそうに働いているのが印象的でした。

——実際に仕事をしてみて感じていることを教えてください。

T・W やってよかった、この仕事を選んで間違っていないかと思えます。勤務シフトがいくつかあり、生活リズムの調整が大変だなと思う時もありますが、事業所ごとに支援が違っていて、経験を積みみたいときに志望できる人事制度もある。他の法人ではなかなかできないことだと思います。

R・W ボランティアと仕事とは違うな、と。決まった時間ではなくて時差出勤もあるし、特に入職してすぐの4月は自身の調整に大変なことが多かったですが、でも最近少しずつ楽しむ余裕が持てるようになってきました。尊敬する人の近くで働けていることが嬉しいし、ここで働いて良かったと感じています。

——もしボランティアが授業のカリキュラムなどではなかったら参加していましたが、

T・W 参加してなかったと思います（笑）。それより学生時代は遊びたい気持ちの方が大きいのではないかと思います。内定が決



まった後でなら考えるかもしれないですね。

R・W 私も行かなかったと思います。行かなきゃならない状況だったので、なかなか想像できないですけど、学生時代はどうしても遊びたい気持ちが強くなるんじゃないかなと思います。

——実際にボランティアをしてみて、人に勧められますか？

T・W 勧められますね！さっきの答えと矛盾してしまうかもしれませんが、ボランティアを通して施設や福祉サービスについて知ることができるので、就職活動をする時の判断材料になると思います。なので、迷っている人は積極的に参加してほしいなと思います。

R・W 私も勧められます。自分がボランティアに参加してきたからこそ、参加したメリットが圧倒的に多かったと思っています。似たような意見になりますが、就職先を見極める材料にもなると思いますので、ぜひお勧めです。

足羽福祉会インフォメーション

足羽福祉会は、赤ちゃんからお年寄りまで、障がいの有無に関わらず「共に生きる」を目指してしており、利用者様や職員をはじめ、地域への貢献も大切にしています。

TOPIC 03

柳沢理事、矢納理事が ご退任されました。

長年にわたり当法人の運営にご尽力いただいた柳沢全之、矢納ともえ氏のお二方が、令和5年度定時評議員会終結の任期をもって当法人理事をご退任されました。この場をお借りしてその多大なる貢献に感謝申し上げます。



理事・監事の皆さんと。
第2回足羽福祉会
理事会にて。
(2023.6.2)

足羽福祉会は、「生きる」に、伴走し続ける』を合言葉に、明日へと力強く歩みだしました。ホームページで高村理事長は足羽福祉会について語っています。「いろんな施設に断られた。



でも最後にあすわさんに受け入れてもらって助かったとの声」。だれ一人見捨てない、福井の福祉の最後の砦である。これこそが存在意義だとの言葉が胸に響きます。私にとり、理事としての27年間は大いなる誇りです。
柳沢全之

私は、昭和52年に足羽福祉会に就職して以来、初代理事長の「共に生き」の精神を心に刻み福祉に携わってきました。保育士としては、たくさんの思い出を子どもたちと一緒に作ることができ、理事としても、多くの学びをいただき、この五十余年は感謝の気持ちでいっぱいです。足羽福祉会は時代の変化に応じ基盤を築いて来られ、今後も役割はますます大きくなっていくと思いますが、皆さまのご活躍を期待しています。
矢納ともえ



TOPIC 01

あすわのこどもてん2023が 開催されました。

令和5年1月26日～29日に福井市美術館（アートラボふくい）にて、足羽福祉会主催の「あすわのこどもてん2023～はる・なつ・あき・ふゆ～」を開催いたしました。足羽福祉会の福祉サービスを利用する子どもたちと若手職員たちが中心になって企画を行いました。四季折々のテーマに子どもたちのパワーと独自の感性があふれる作品を展示させていただきました。

“みんなちがって、みんないい”
一人ひとりの個性がきらりと光る作品展に、心が温まりました。職員の展示の工夫やアイデアも素敵でした。



TOPIC 04

令和5年度 辞令交付式が 執り行われました。

4月1日に足羽福祉会本部にて、辞令交付式が執り行われました。今年度は新卒入職者・中途入職者・異動者・昇格者合わせて52名の方へ辞令が交付され、高村理事長より手渡されました。

高村理事長からは歓迎の言葉と新年度に向けた訓示がありました。新卒入職者へ向け、「各施設のGMや現場で皆さんを待っている上司や先輩職員と共に、私は皆さんを一人にはさせません。どんどん周囲に相談しながら、いろんなことにチャレンジしてください」とお言葉がありました。

そのあと、新入職員は3日間の研修を経て、各事業所への配属となりました。支え合い、寄り添い、励まし合いながら職員一同、利用者様と共に、地域と共に、「生きる」に伴走し続けてまいります。



春になり、新しい仲間を迎えました。理事長より辞令交付を受ける職員の様子からは、力強い意気込みを感じました。ようこそ、足羽福祉会へ。

TOPIC 02

社会福祉法人 足羽福祉会 令和4年度サービス実践報告会を 行いました。

3月4日に、福井大学にてサービス実践報告会を行いました。新型コロナウイルス感染症の影響で、ここ数年は発表の撮影を行い動画配信で学びを深める形式になっていたため、今回は約3年ぶりのリアル開催となりました。各事業所の支援員の利用者様へかける「思い」が支援という形になり、いずれの事例も試行錯誤の足跡が感じられる素晴らしい内容でした。

また、足羽福祉会主催ではあるものの、当日は他法人様の事例発表もあり、幅広く知見を積み上げていくことで福祉全体の支援力を高めていく機会にもなりました。



試行錯誤を積み重ね、日々支援を行う職員。チームでの支え合い、そして利用者様との信頼関係が垣間見える報告会でした。





森のアートフェスタ 出店しました！



Pick UP

5月13日と14日の2日間にわたって金津創作の森で行われた『森のアートフェスタ』に、あすわの実が出店しました！今回のメインは『雑穀米の醤油カツ井』と『ローストビーフ丼』の2つ。お天気にも恵まれ、たくさんの方々にご来店いただき、ご利用者様も何名かお手伝いに入っていました！ドリンク作りや商品受け渡しに取り組んでいただきました。「いらっしやいませ！」「お待ちできました！」と、大きな声で楽しそうに接客している利用者様には、職員一同もたくさん元気をいただきました。お客様はもちろん、他店の出展者の方々ともたくさん交流ができ、とても充実した2日間となりました！



Art Festival

EVENT NEWS

第10回 足羽川ふれあいマラソンが開催されます!

今回は第10回の節目の大会となります。3年ぶりにハーフコースも復活します。たくさん笑顔に会えますように。

開催日 令和5年11月19日(日)
会場 福井市木田小学校周辺
種目 ハーフ/10km/5km/3km/2km親子/1.2km親子



赤い羽根共同募金に職員から寄せられた浄財83,221円を福井県共同募金へお届けしました。



愛のささえ ai no sasae

令和4年12月1日から、令和5年5月31日までのの方々を掲載させていただきました。

足羽東こども園

- 寄付・寄贈
高嶋幹弘
- ボランティア・交流・訪問
社会福祉法人すいせんの里 すだちの家/上文殊小学校

足羽学園・足羽更生園

- 寄付・寄贈
医療法人福山医院 福山智基
- 研修・実習・見学
在藤公則

あすわ第1・2・3

- 研修・実習・見学
坂本真紀

フレンズあすわ

- 研修・実習・見学
ファミリーワークショップ/福井市障がい児支援事業所連絡会 特別総会/仁愛大学

フレンズどれみ

- 寄付・寄贈
高嶋美千代

足羽ワークセンター

- 研修・実習・見学
丸岡高校/福井県立嶺北特別支援学校/福井県立福井東特別支援学校

パステル

- 研修・実習・見学
福井県立福井南特別支援学校

スマイル

- ボランティア・交流・訪問
浅原寛子/島田祐美子/山本敦子
- 研修・実習・見学
福井大学教育学部附属特別支援学校/福井県立清水特別支援学校/福井県立嶺北特別支援学校/福井県立福井南特別支援学校

カラフル

- ボランティア・交流・訪問
東藤島公民館
- 研修・実習・見学
福井県立嶺北特別支援学校/福井県立清水特別支援学校

愛全園

- 研修・実習・見学
仁愛大学/福井県医療福祉専門学校

足羽利生苑

- 寄付・寄贈
小松喜行/立正佼成会福井教会 前川雅彦/田中正己/藤原一子
- 研修・実習・見学
金城大学/(株)グレート

グループホーム美山

- 寄付・寄贈
上道保子/高橋孝一
- ボランティア・交流・訪問
家接忠/家接加津代/松川修治/小嵐龍夫

順不同・敬称略

編集後記

気持ちの良い天気の日が増えてきました。休みの日は引きこもりがち人間ですが、なるべく外に出るよう意識して太陽の光を浴びるようにしています。

梅雨に入りどんよりした気持ちになりがちですが、学園利用者様の笑顔を見ると今日もがんばろうと元気をいただきました。これからも体調に気を付けてがんばっていききたいと思っています。

ボランティアに興味を持ってくれる人が増えてほしいです。

今月で広報担当からは交代しますが、楽しく活動できました!ありがとうございます。ありがとうございました。

うさぎの動画を見ることにはまっています。ごはんを食べる姿がとてもかわいく癒されます。

最近暑くなってきたので、体調管理に気を付けていきたいと思っています。

皆さんは毎日、ちょっと頑張っていることはありますか?私は家族の弁当作りを頑張っています。

本格的な夏を前に、脱水や熱中症等に注意し体調を整え、暑い夏を安全で健康に乗り切りましょう。

新しいロゴが発信されて早や3か月。反響もたくさんあり、よっしゃ!福祉の魅力もっと発信したるで!という上向きモチベーションがハンパないです!

丹代(本)

坂野(利)

柳澤(愛)

小林(フ)

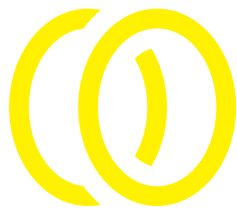
丸子(あま)

松嶋(ハ)

森口(更)

和田(宇)

矢部(こ)



あすわ

「生きる」に、伴走し続ける。

www.asuwafukushikai.jp

社会福祉法人 足羽福祉会

法人本部/福井県福井市梅野町 20-7 TEL.0776-41-3108

子ども福祉部門

- 啓明児童クラブ
- 上文殊児童クラブ
- 足羽東こども園
- 足羽学園
- 子ども発達支援センター
- フレンズあすわ
- フレンズみゆき
- フレンズどれみ

障がい者福祉部門

- 足羽ワークセンター
- 足羽サポートセンター
- パステル
- スマイル
- カラフル
- あすわ相談支援事業所リアン
- 足羽更生園
- あすわ第1/あすわ第2/あすわ第3

高齢者福祉部門

- 愛全園
- 足羽利生苑
- グループホーム美山
- 福井大東包括支援センター(ほやねっと大東)